

9

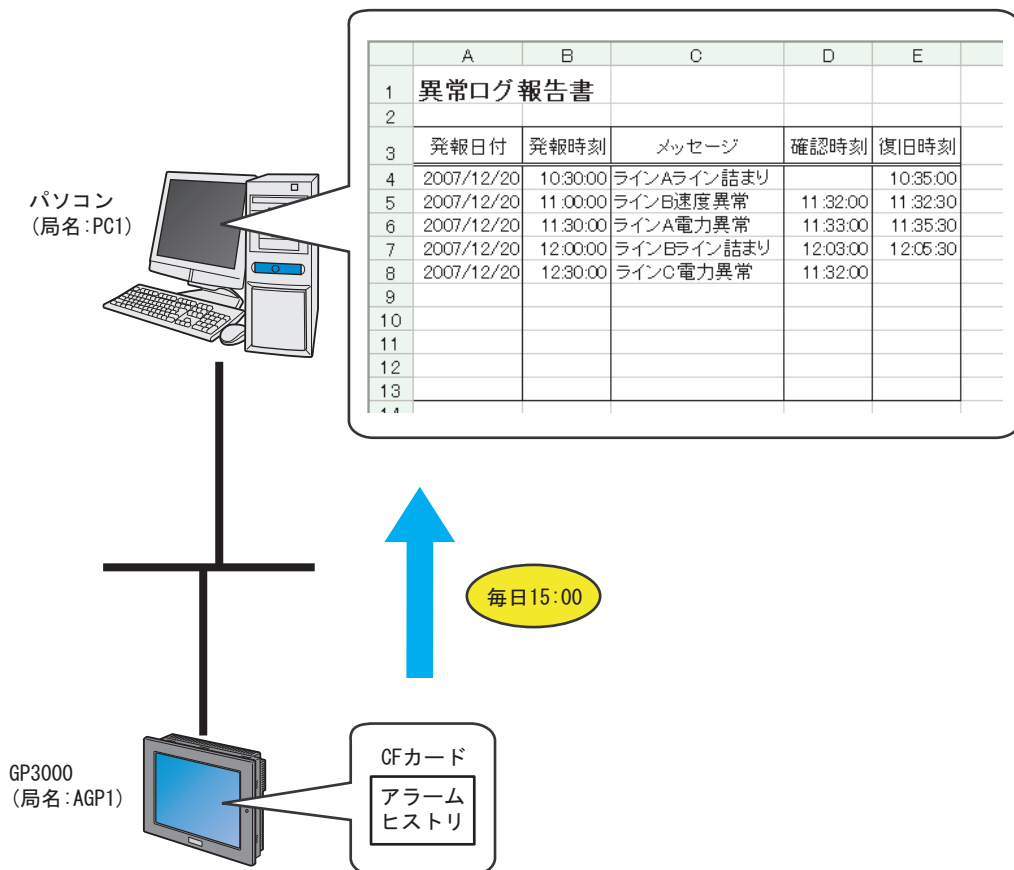
表示器のログデータを Excel にまとめたい！

9.1	表示器のログデータを Excel に書き込んでみよう！	9-2
9.2	設定ガイド	9-26
9.3	制限事項	9-32

9.1 表示器のログデータを Excel に書き込んでみよう！

【動作例】

表示器の SRAM に保存されているアラームログデータを、毎日 15:00 に Excel ファイルへ書き込む



この節では、例として、上記の動作（アクション）を行うための設定を順番に説明します。

MEMO ・ アラームの詳細については、『GP-Pro EX リファレンスマニュアル』をご覧ください。

【設定手順】

1	テンプレートの作成（9-4 ページ）	表示器のログデータを書き込むためのテンプレートを作成します。
2	『Pro-Studio EX』の起動（9-5 ページ）	『Pro-Studio EX』を起動します。
3	参加局の登録（9-5 ページ）	パソコンと表示器を参加局として登録します。
4	Excel テンプレートと出力ブックの指定（9-6 ページ）	以下の項目を設定します。 ・ テンプレートファイルの指定 ・ 出力ファイルの指定
5	Excel テンプレートの内容設定（9-10 ページ）	以下の項目を設定します。 ・ ログデータの種類 ・ データの指定方法
6	アクション動作局 / 処理完了通知の設定（9-19 ページ）	アクションの動作局およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。
7	設定内容の確認（9-21 ページ）	設定内容一覧画面で、設定した内容を確認します。
8	ネットワークプロジェクトファイルの保存（9-23 ページ）	設定した内容をネットワークプロジェクトファイルとして保存し、リロードします。
9	ネットワークプロジェクトファイルの転送（9-24 ページ）	保存したネットワークプロジェクトファイルを表示器に転送します。
10	アクションの実行（9-25 ページ）	設定した起動条件が有効になると、表示器のログデータが Excel の指定した場所書き込まれることを確認します。

9.1.1 テンプレートの作成

ログデータを書き込むためのテンプレートを作成します。

1 『Microsoft Excel』を起動し、Sheet1 に下記のシートを作成します。

アクションを実行すると、ログデータが書き込まれます。

	A	B	C	D	E
1	異常ログ報告書				
2					
3	発報日付	発報時刻	メッセージ	確認時刻	復旧時刻
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					

2 ファイル名「template.xlt」として、パソコンのデスクトップに保存します。

9.1.2 『Pro-Studio EX』の起動

『Pro-Studio EX』を起動します。

起動方法の詳細については、「第3章 かる～く Pro-Server EX を体験してみませんか？」をご覧ください。

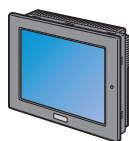
9.1.3 参加局の登録

ネットワークに接続しているパソコンと表示器を、参加局として登録します。

参加局の詳細については、「第31章 参加局登録について」をご覧ください。



局名 : PC1
IPアドレス : 192.168.0.1



局名 : AGP1
IPアドレス : 192.168.0.100

接続機器情報

設定例

参加局	設定項目	設定内容
パソコン	局名	PC1
	IP アドレス	192.168.0.1
表示器	種類	GP3000 シリーズ
	局名	AGP1
	IP アドレス	192.168.0.100

9.1.4 Excel テンプレートと出力ブックの指定

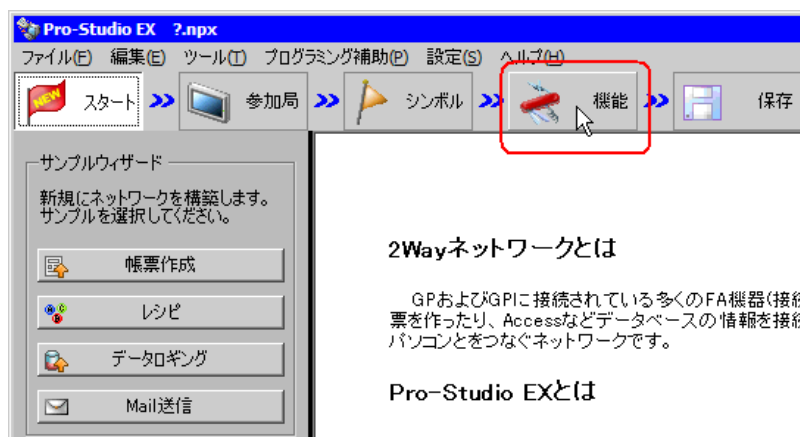
9.1.1 で作成した帳票テンプレートと出力ブックの指定を行います。

詳細については、「9.2 設定ガイド」をご覧ください。

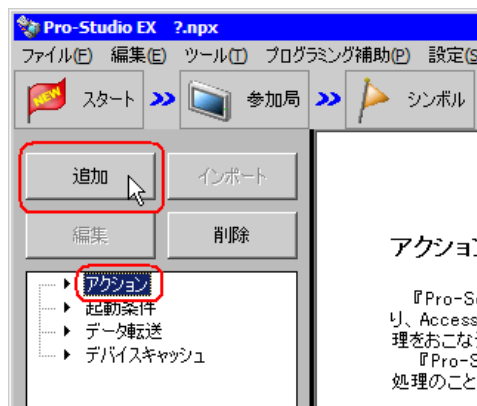
設定例

設定項目		設定内容
テンプレートの指定	テンプレートファイル	C:\¥ Documents and Settings ¥ Administrator ¥ デスクトップ ¥ templete.xls
出力ファイル	フォルダ名	C:\¥ Documents and Settings ¥ Administrator ¥ デスクトップ
	ファイル名	表示器ログデータ .xls
	出力ファイルを表示した状態から開始する	チェックあり
	アクション実行時、出力ファイルの保存を実行しない	チェックなし

1 状態バーの「機能」アイコンをクリックします。

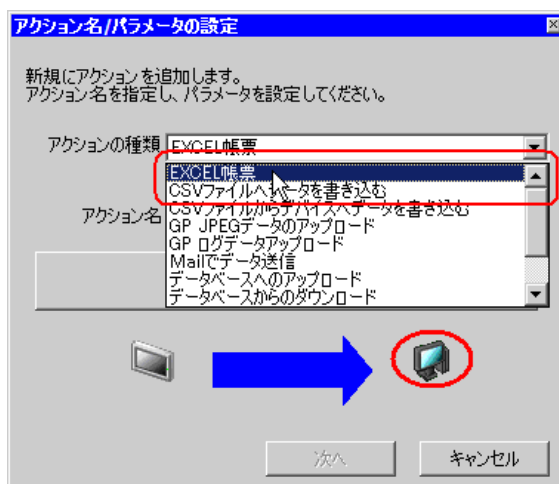


2 画面左のツリー表示から、「アクション」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

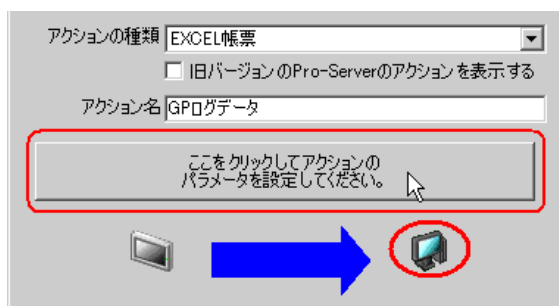


- 3 [アクションの種類] のリストボタンをクリックし、「EXCEL 帳票」を選択します。
続いて、[アクション名] に設定するアクション名「GP ログデータ」を入力します。

MEMO ・ [アクション名] には、任意のアクション名を設定できます。

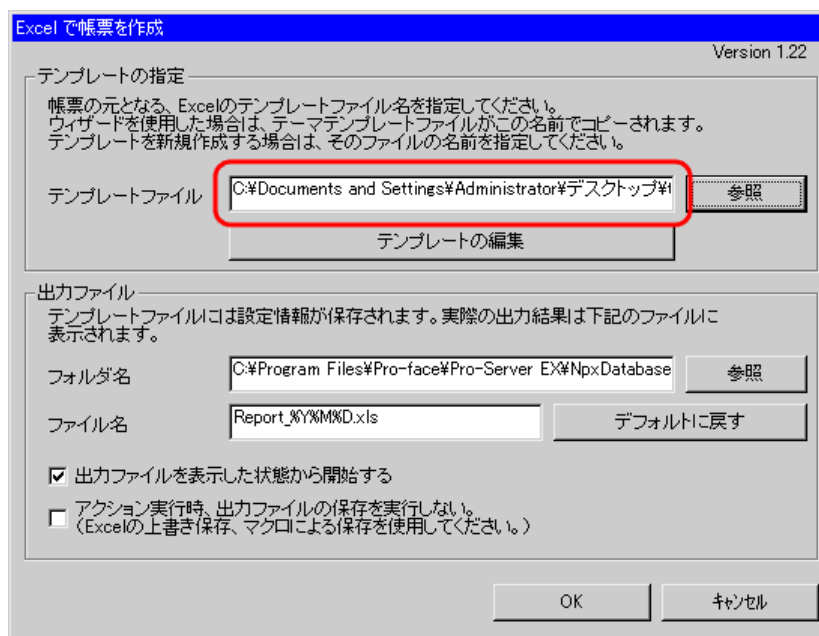


- 4 [ここをクリックしてアクションのパラメータを設定してください。] ボタンをクリックします。

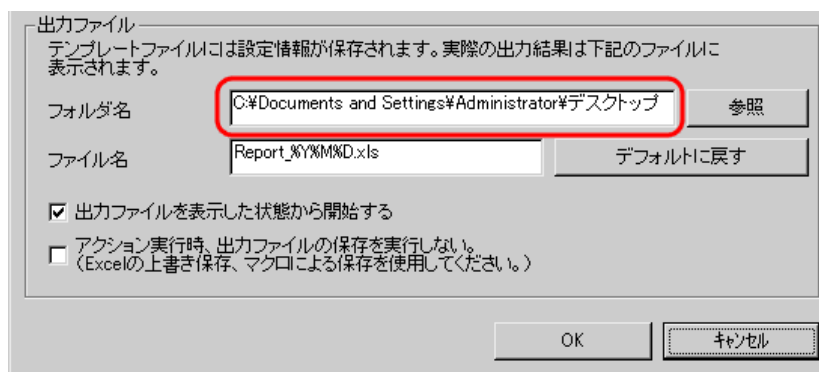


5 Excel テンプレートと出力ファイルに関する設定を行います。

- 1) [テンプレートファイル] の [参照] ボタンをクリックし、作成したテンプレートファイル「template.xlt」を設定します。



- 2) [フォルダ名] の [参照] ボタンをクリックし、出力ファイルを保存するフォルダ「デスクトップ」を設定します。



- 3) [ファイル名] に、設定する出力ファイルのファイル名「GP ログデータ.xls」を設定します。

出力ファイル
テンプレートファイルには設定情報が保存されます。実際の出力結果は下記のファイルに表示されます。

フォルダ名 参照

ファイル名 デフォルトに戻す

☒ 出力ファイルを表示した状態から開始する

☐ アクション実行時、出力ファイルの保存を実行しない。
(Excelの上書き保存、マクロによる保存を使用してください。)

OK キャンセル

MEMO ・ デフォルトの「%Y%M%D」には、「年/月/日」が設定されます。詳細については、「37.1 名前の制限事項」を参照してください。

- 4) [出力ファイルを表示した状態から開始する] をチェックします。

出力ファイル
テンプレートファイルには設定情報が保存されます。実際の出力結果は下記のファイルに表示されます。

フォルダ名 参照

ファイル名 デフォルトに戻す

☒ 出力ファイルを表示した状態から開始する

☐ アクション実行時、出力ファイルの保存を実行しない。
(Excelの上書き保存、マクロによる保存を使用してください。)

OK キャンセル

MEMO ・ [出力ファイルを表示した状態から開始する] は、出力ファイルを表示した状態でデータの読み出し / 書き込みを開始しますので、すぐにデータを確認したい場合などに有効です。

9.1.5 Excel テンプレートの内容設定

ログデータを Excel に書き込むための、Excel テンプレートの内容を設定します。

ここでは、テンプレートのデータ書き込みエリア（GP 内ログデータエリア）の設定を行います。

詳細については、「9.2 設定ガイド」をご覧ください。

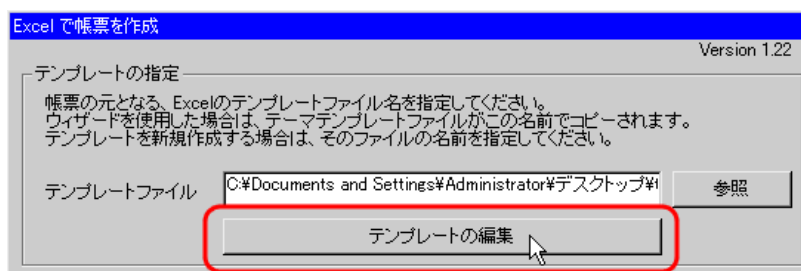
対象セル範囲

	A	B	C	D	E
1	異常ログ報告書				
2					
3	発報日付	発報時刻	メッセージ	確認時刻	復旧時刻
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					

設定例

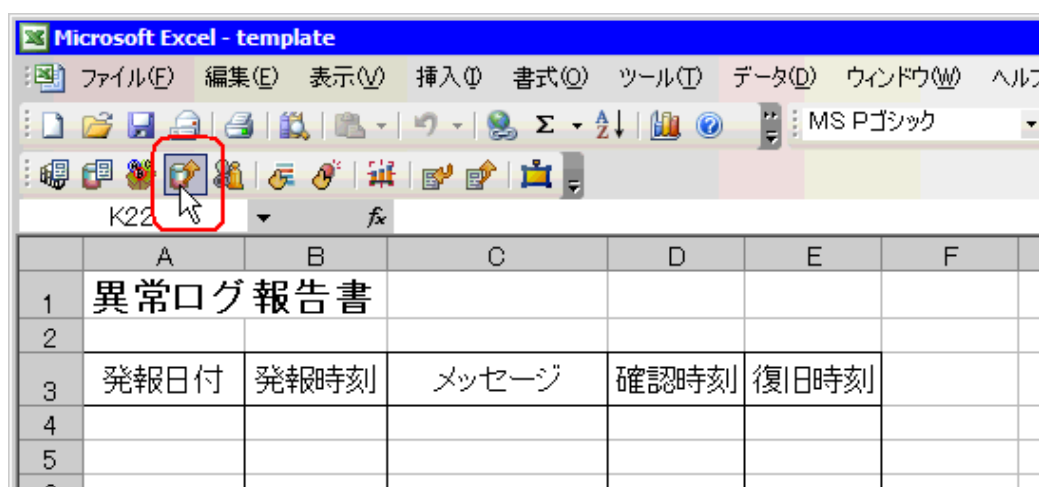
設定項目	設定内容
対象セル範囲	A4 ~ E13
参加局	AGP1
データの種類	ブロック 1 データ
アラームの種類	アラームヒストリ
ファイル番号の指定方法	現在データ（SRAM 内データ）
セルがいっぱいになった時の動作	クリア後上書き
起動条件	指定時刻（15:00）

1 [テンプレートの編集] ボタンをクリックします。

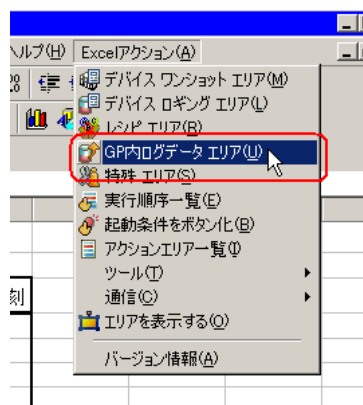


2 データ書き込みエリアの設定を行います。

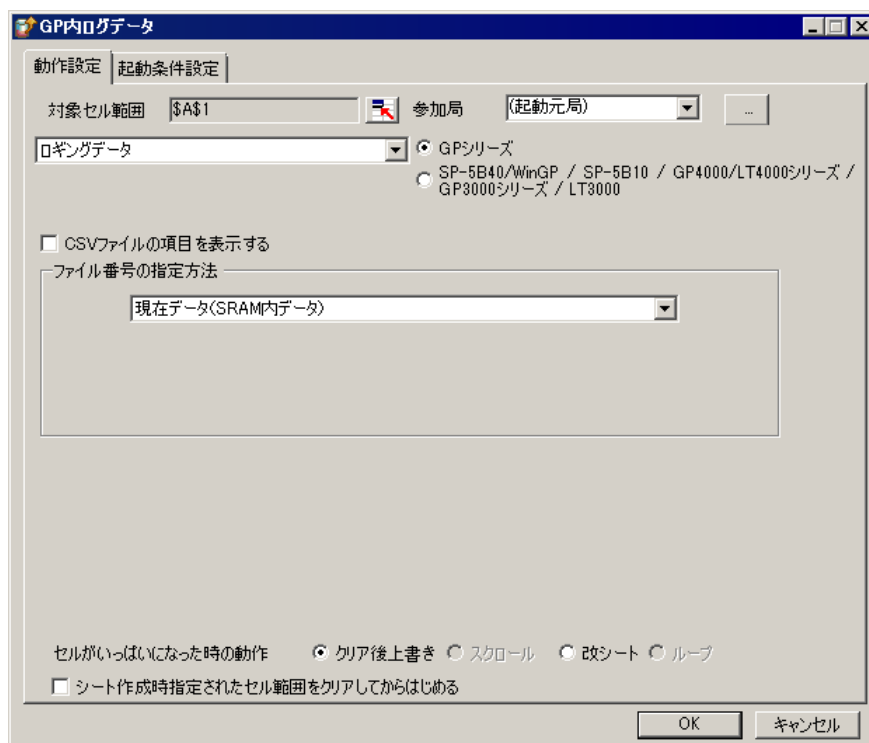
- 1) Excel の [GP 内ログデータ エリア] アイコンをクリックします。



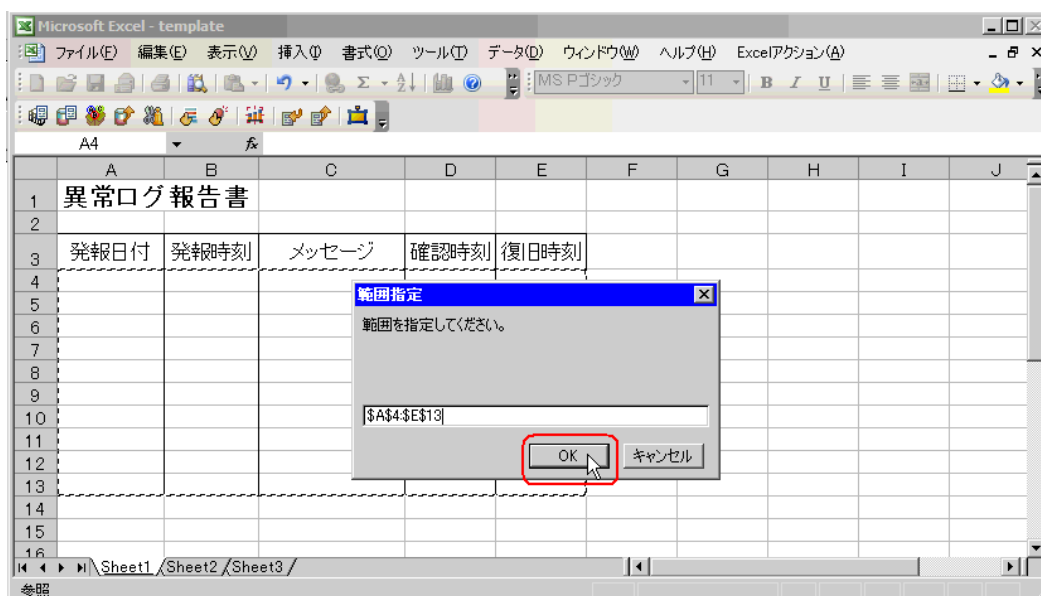
MEMO ・ メニューの [Excel アクション] から、「GP 内ログデータ エリア」を選択しても、同様の画面が表示されます。



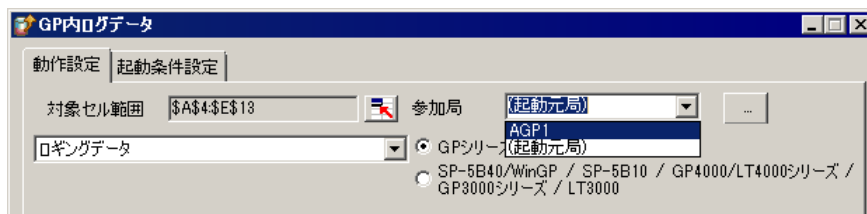
- 2) [対象セル範囲] のセル範囲指定ボタンをクリックします。



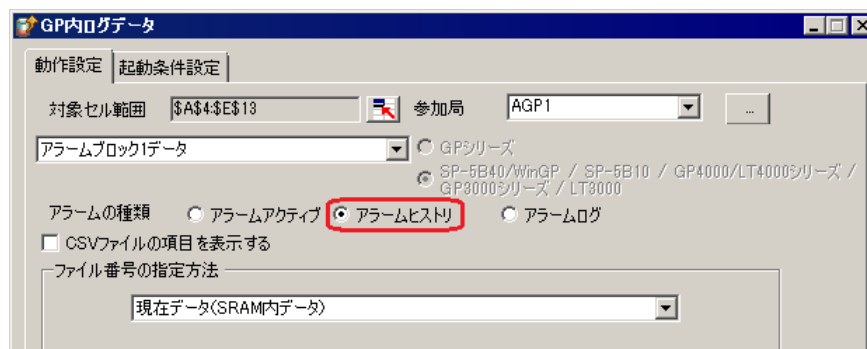
- 3) マウスでデータをログギングするエリア (セル A4 ~ E13) をドラッグして指定したあと、[OK] ボタンをクリックします。



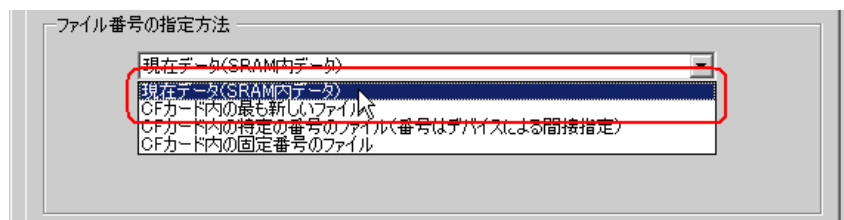
- 4) [参加局] のリストボタンをクリックし、データ転送元となる局名「AGP1」を選択します。



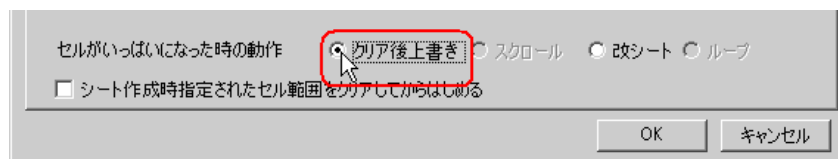
- 5) データの種類で「アラームブロック1データ」、アラームの種類で「アラームヒストリ」を選択します。



- 6) [ファイル番号の指定方法] で、「現在データ (SRAM 内データ)」を選択します。

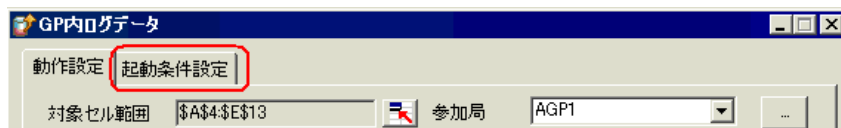


- 7) [セルがいっぱいになった時の動作] で、「クリア後上書き」を選択します。

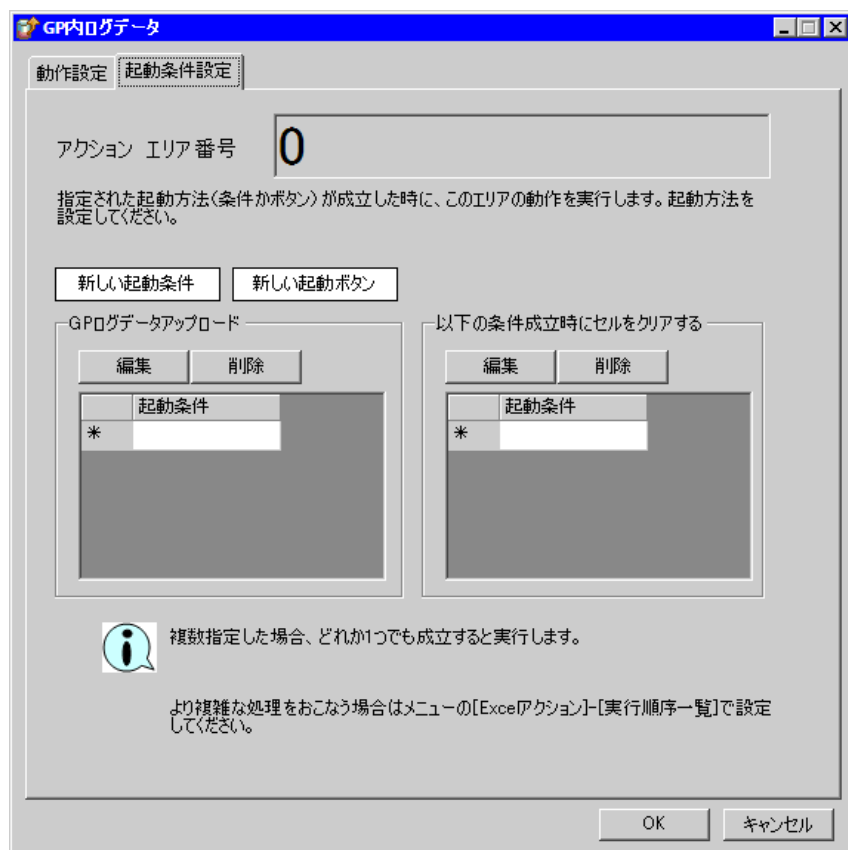


3 起動条件の設定を行います。

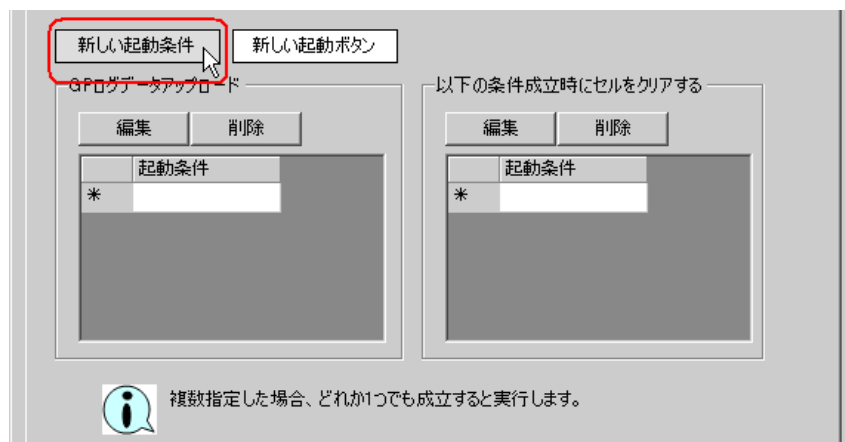
- 1) [起動条件設定] タブをクリックします。



「起動条件設定」画面が表示されます。



- 2) [新しい起動条件] ボタンをクリックします。



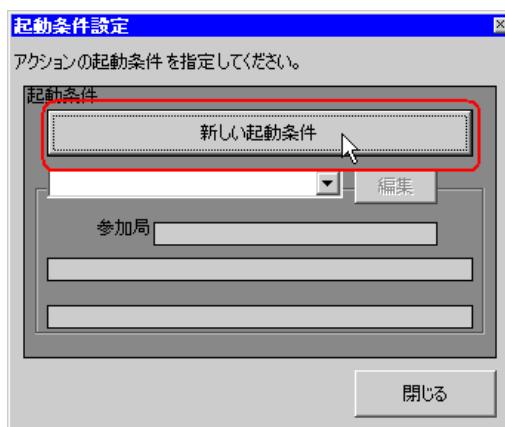
MEMO

- Excel 上にボタンを配置し、これを起動条件にしてアクションを実行させることができます。詳細については、「5.6 帳票に起動ボタンを配置したい!」をご覧ください。

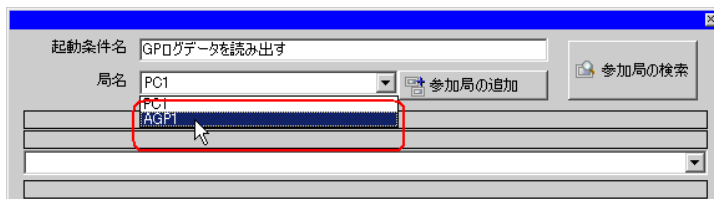
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	異常ログ報告書							
2								
3	発報日付	発報時刻	メッセージ	確認時刻	復旧時刻			
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								

Excel Form Action

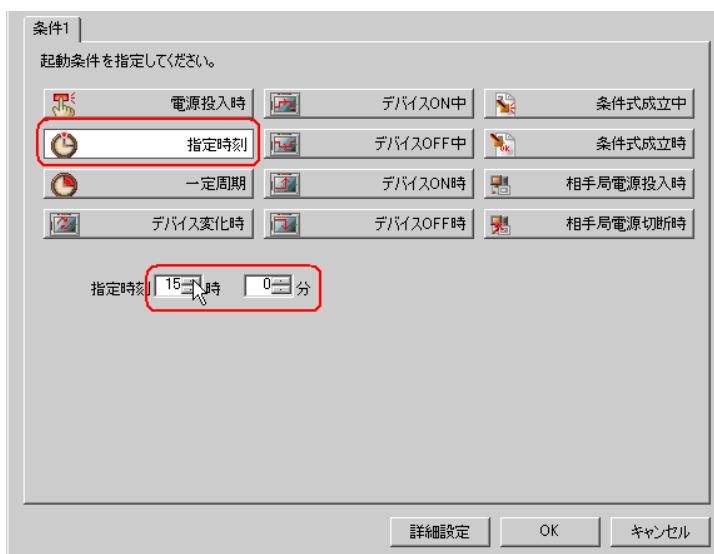
- 3) [新しい起動条件] ボタンをクリックします。



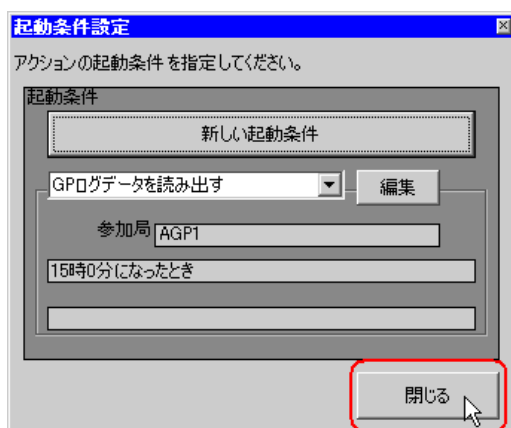
- 4) [起動条件名] に、起動条件名「GP ログデータを読み出す」を入力し、[局名] に、データ転送元となる局名「AGP1」を選択します。



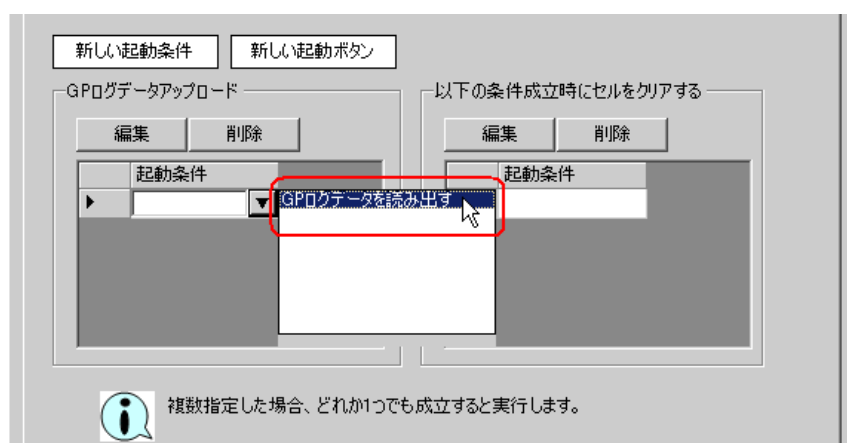
- 5) [条件 1] タブの [指定時刻] ボタンをクリックし、[指定時刻] に「15」「0」を設定して [OK] ボタンをクリックします。



- 6) [閉じる] ボタンをクリックします。



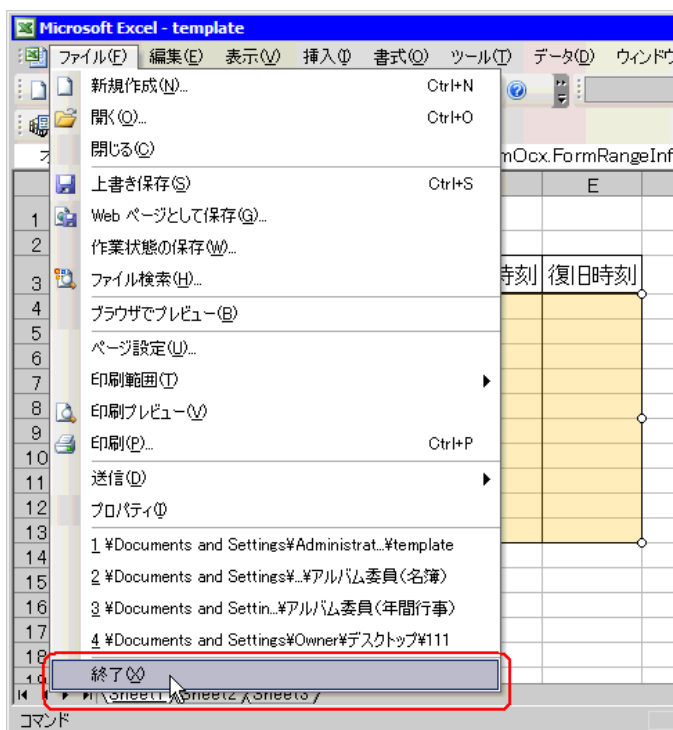
- 7) [ログイン] の [起動条件] の空白行をクリックし、起動条件「GP ログデータを読み出す」を選択します。



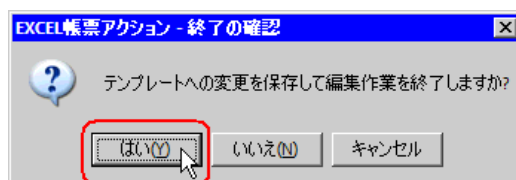
- 8) [OK] ボタンをクリックします。

以上で、Excel テンプレートの内容設定が終了しました。

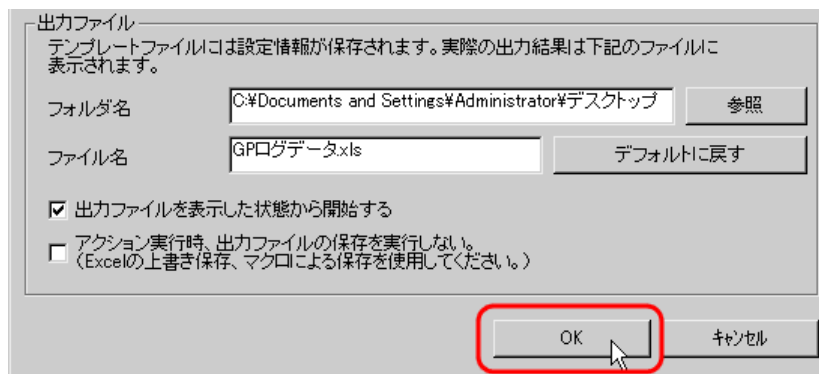
4 Excel を終了します。



下記の確認画面が表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。



5 「Excel で帳票を作成」画面で、[OK] ボタンをクリックします。



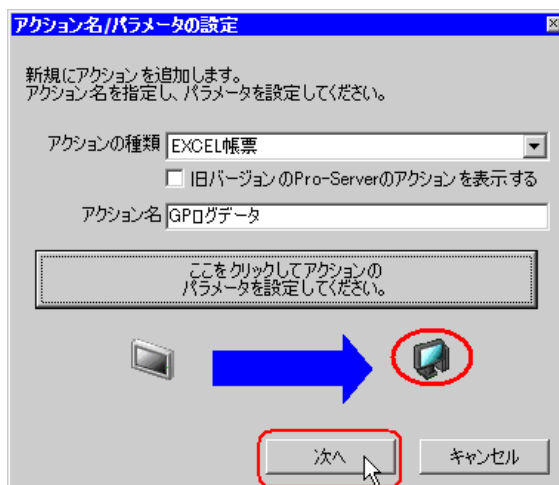
9.1.6 アクション動作局 / 処理完了通知の設定

アクションが動作する局名、およびアクションが実行されたことの通知の有無を設定します。

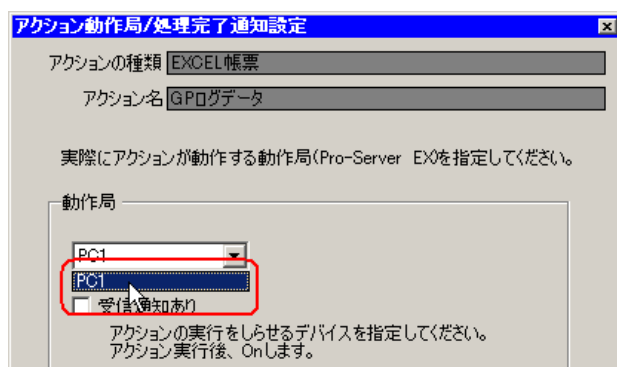
設定例

- 動作局 : PC1
- 受信通知 : なし

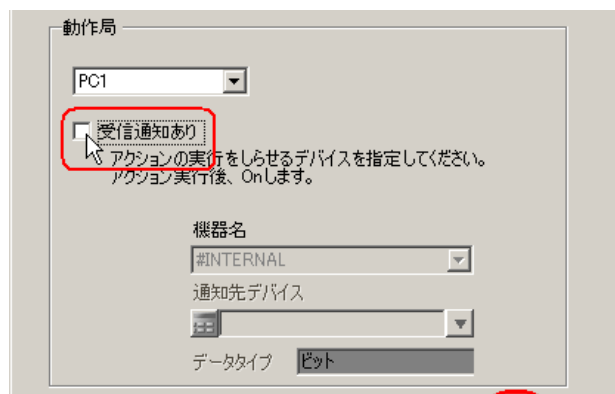
1 「アクション名 / パラメータの設定」画面で、「次へ」ボタンをクリックします。



2 [動作局] のリストボタンをクリックし、アクションが動作する局名「PC1」を選択します。



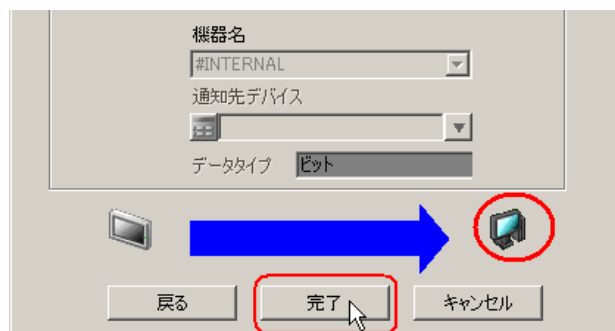
3 [受信通知あり] がチェックされている場合は、チェックを外します。



MEMO ・「受信通知」は設定しないでください。

4 [完了] ボタンをクリックします。

「アクション動作局 / 処理完了通知設定」画面が閉じ、画面左に、設定したアクション名が表示されます。



以上で、アクション動作局および処理完了通知の設定が終了しました。

9.1.7 設定内容の確認

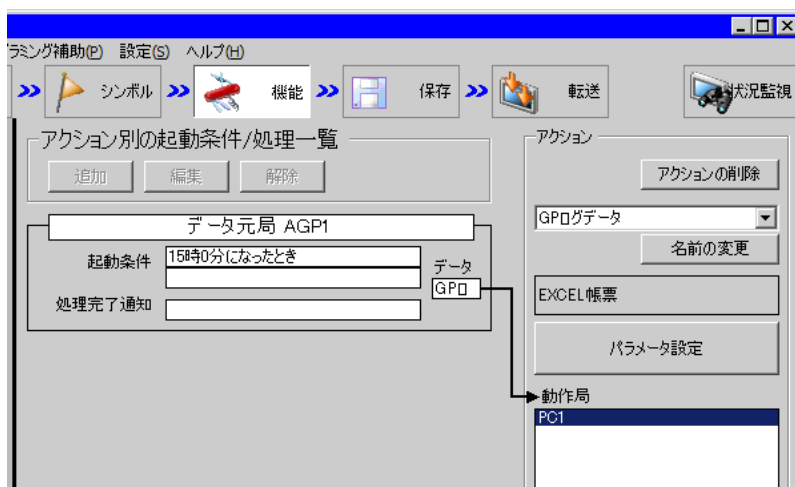
設定内容の一覧画面で、設定した内容を確認します。

- MEMO
- ・「Excel 帳票」アクションの場合、「アクション別の起動条件 / 処理一覧」から起動条件の追加、編集、削除を行うことができません。変更を行う場合は、[パラメータ設定] ボタンをクリックし、[テンプレートの編集] で Excel 上で変更を行ってください。

1 画面左のツリー表示から、アクション名「GP ログデータ」をクリックします。



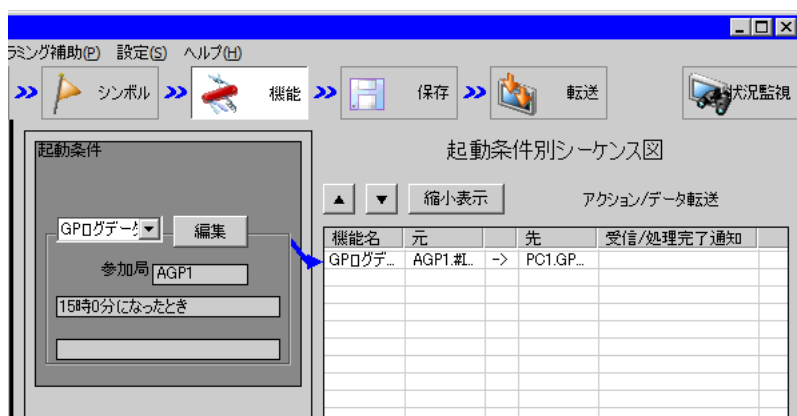
設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



2 画面左のツリー表示から、起動条件名「GP ログデータを読み出す」をクリックします。



設定した内容が、画面右に表示されていることを確認します。



以上で、設定内容の確認が終了しました。

9.1.8 ネットワークプロジェクトファイルの保存

設定した内容を、ネットワークプロジェクトファイルとして保存し、『Pro-Server EX』にリロードします。

ネットワークプロジェクトファイルの保存については、「第 25 章 保存について」をご覧ください。

重 要

- ・『Pro-Server EX』は、ネットワークプロジェクトファイルを読み込み、そこに設定された内容によりアクションを実行します。したがって、設定した内容は必ずネットワークプロジェクトファイルとして保存する必要があります。
 - ・ネットワークプロジェクトファイルの『Pro-Server EX』へのリロードは必ず行ってください。リロードを行わないとアクションが動作しません。
-

設定例

- ・ ネットワークプロジェクトファイルのパス : デスクトップ¥monitor.npx
- ・ タイトル : EXCEL 帳票アクション

9.1.9 テスト読み出し

作成したネットワークプロジェクトファイルを参加局に転送する前に、設定が正しく行われているかどうかを確認することができます。

アクション実行時には、出力ファイルに読み出されますが、テスト読み出しはテンプレートファイルに反映されます。

MEMO

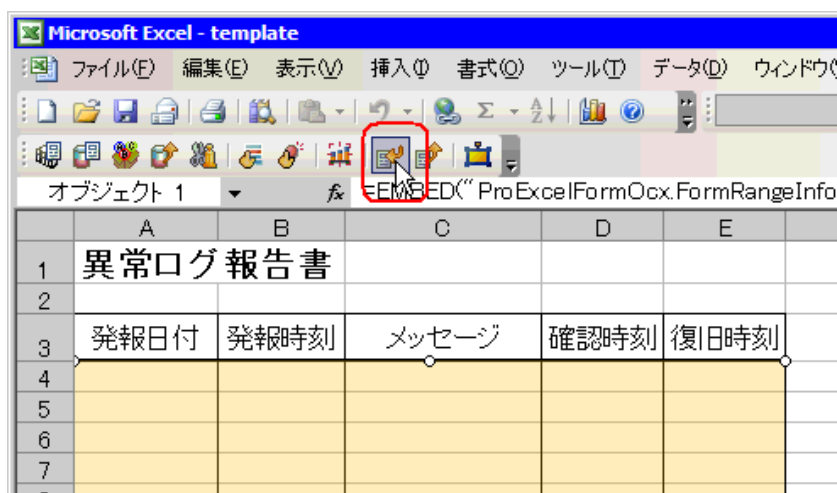
- ・ テスト読み出しは、必ずしも行って頂く必要はありません。
テスト読み出しを行わない場合は、「9.1.10 ネットワークプロジェクトファイルの転送」へお進みください。
-

重 要

- ・ テスト読み出しを行うには、作成したネットワークプロジェクトファイルがロードされた『Pro-Server EX』が起動している必要があります。
-

- 1 [機能] ボタンをクリックします。
- 2 画面左のツリー表示から Excel 帳票アクションをクリックし、[編集] ボタンをクリックします。
- 3 「アクション名 / パラメータの設定」画面で、[ここをクリックしてアクションのパラメータを設定してください。] ボタンをクリックします。
- 4 「Excel で帳票を作成」画面で [テンプレートの編集] ボタンをクリックします。

- 5 アクションエリアを選択した状態で [テスト読み込み] アイコンをクリックします。



テンプレート上に、設定した内容で読み出しが行われます。

MEMO ・ テスト読み出しの制限事項については、「9.3 制限事項」をご覧ください。

9.1.10 ネットワークプロジェクトファイルの転送

保存したネットワークプロジェクトファイルを、『Pro-Server EX』にロードし、参加局に転送します。
ネットワークプロジェクトファイルの転送については、「第 26 章 転送について」をご覧ください。

MEMO ・ ネットワークプロジェクトファイルの転送は、必ず行ってください。転送を行わないとアクションが動作しません。

9.1.11 アクションの実行

起動条件が有効になった時点で、アクションが動作して Excel ブック（ファイル名：「GP 異常ログ.xls」）が開き、表示器のログデータが指定した場所書き込まれることを確認します。

	A	B	C	D	E	F
1	異常ログ報告書					
2						
3	発報日付	発報時刻	メッセージ	確認時刻	復旧時刻	
4	2007/12/20	10:30:00	ラインAライン詰まり		10:35:00	
5	2007/12/20	11:00:00	ラインB速度異常	11:32:00	11:32:30	
6	2007/12/20	11:30:00	ラインA電力異常	11:33:00	11:35:30	
7	2007/12/20	12:00:00	ラインBライン詰まり	12:03:00	12:05:30	
8	2007/12/20	12:30:00	ラインC電力異常	11:32:00		
9						

MEMO

- ・エラーが発生した場合、ログビューアでログを確認することができます。詳細については、「28.5 システム稼動ログが見たい！」をご覧ください。
- ・アクションを実行時の通信速度の向上を図りたい場合は、「第 29 章 通信を速くするひと工夫！」をご覧ください。

以上で、このアクションの説明は終了です。

9.2 設定ガイド

この節では、アクションのパラメータのくわしい設定のしかたについて説明します。

9.2.1 「Excel で帳票を作成」画面

☞ 「■「Excel で帳票を作成」画面」

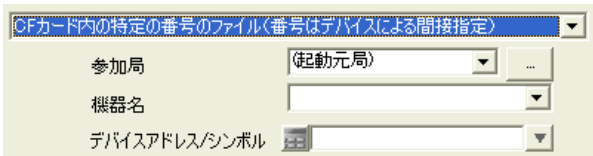
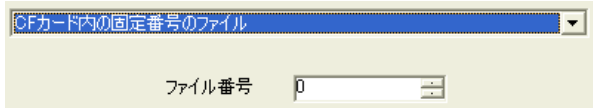
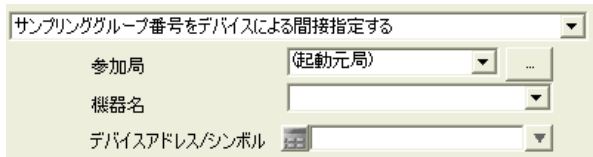
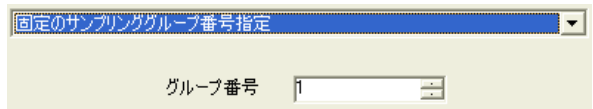
9.2.2 「GP 内ログデータ」画面

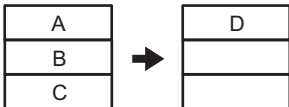
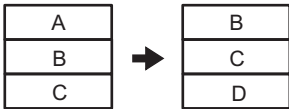
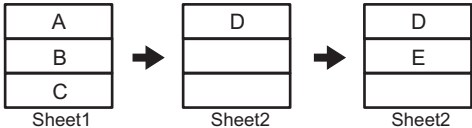
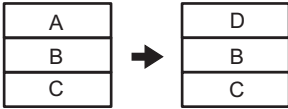
■「動作設定」タブ

The screenshot shows the 'GP内ログデータ' (GP Internal Log Data) dialog box with the '動作設定' (Action Setting) tab selected. The '対象セル範囲' (Target Cell Range) is set to '\$A\$1'. The '参加局' (Participating Station) is set to '(起動元局)' (Starting Station). The 'ログデータ' (Log Data) dropdown is set to 'GPシリーズ' (GP Series). The 'CSVファイルの項目を表示する' (Show CSV file items) checkbox is unchecked. The 'ファイル番号の指定方法' (File number designation method) dropdown is set to '現在データ(SRAM内データ)' (Current data (SRAM internal data)). The 'セルがいっぱいになった時の動作' (Action when cells are full) section has 'クリア後上書き' (Clear and overwrite) selected. The 'シート作成時指定されたセル範囲をクリアしてから始める' (Clear the specified cell range when creating the sheet and then start) checkbox is unchecked. The 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are at the bottom right.

設定項目	設定内容
対象セル範囲	データを書き込むセル範囲を指定します。 ボタンをクリックすると、Excel 上でセル範囲を選択できます。 MEMO - セル範囲の選択方法は、「■ アクションエリアの設定」を参照してください。 - 指定したセル範囲（アクションエリア）を確認するための便利な機能があります。「5.1.2 設定ガイド」の「■ アクションエリア一覧について」をご覧ください。

設定項目	設定内容
参加局	ログデータの読み出しを行う参加局を選択します。 MEMO ・[...] ボタンをクリックすると、参加局の追加または検索が行えます。 ・「(起動元局)」を選択すると、その起動要因となった参加局が対象となります。
データの種類	帳票に書き込むログデータの種類を選択します。 選択できるログデータは、表示器の種類により異なります。 SP-5B40/WinGP / SP-5B10 / GP4000/LT4000シリーズ / GP3000シリーズ / LT3000 ・ CSV データ (レシピ) ・ アラームブロック 1 データ ~ アラームブロック 8 データ ・ GP 画面データ (JPEG) ・ サンプルングデータ ・ GP-ProPB 専用ロギングデータ (互換用) ・ GP-ProPB 専用折れ線グラフデータ (互換用) ・ GP-ProPB 専用データサンプルングのデータ (互換用) MEMO ・ 『GP-PRO/PB III for Windows』からコンバートしたプロジェクトファイルの折れ線グラフ、サンプルング、ロギングデータをアップロードする場合、該当するデータの「互換用」を指定してください。 ・ CF カードスロットまたは SD カードスロットがない機種では、帳票に「GP 画面データ (JPEG)」のログデータを書き込むことはできません。 GPシリーズ ・ ロギングデータ ・ 折れ線データ ・ アラームアクティブ ・ アラームヒストリ ・ CSV データ (レシピ) ・ サンプルングデータ ・ アラームブロック 4 データ ~ アラームブロック 8 データ ・ GP 画面データ (JPEG) MEMO ・ CF カードスロットがない機種では、帳票に「GP 画面データ (JPEG)」のログデータを書き込むことはできません。
アラームの種類	「GP シリーズ」以外の表示器で「アラームブロック * データ」を選択した場合は、アラームの種類を「アラームアクティブ」、「アラームヒストリ」、「アラームログ」のいずれかから選択します。
エリア内に読み込む画面数	「GP 画面データ (JPEG)」を選択した場合は、エリア内に読み込む画面数を設定します。
CSV ファイルの項目を表示する	タイトル部分も Excel に表示させる場合にチェックします。 MEMO ・ 「CSV 表示器データ」と「GP 画面データ (JPEG)」を選択した場合は表示されません。

設定項目	設定内容
ファイル番号の指定方法	読み出すログデータの格納元を選択します。 - 現在データ（SRAM 内データ） 表示器の SRAM に格納されている現在のデータを読み出します。 - CF カード内の最も新しいファイル 表示器の CF カードまたは SD カードに格納されているデータから、最も新しいデータを読み出します。 - CF カード内の特定の番号のファイル（番号はデバイスによる間接指定） 表示器の CF カードまたは SD カードに格納されているデータから、特定の番号のファイルを読み出します。 この場合、ファイル番号はデバイスによる間接指定となります。 参加局、機器名、デバイスアドレスを指定します。  - CF カード内の固定番号のファイル 表示器の CF カードまたは SD カードに格納されているデータから、指定した番号のファイルを読み出します。 この場合、CF カードまたは SD カード内のファイル番号を指定します。 
サンプリンググループ番号の指定方法	「GP シリーズ」以外の表示器で「サンプリングデータ」を選択した場合、サンプリンググループ番号の指定方法を設定します。 - サンプリンググループ番号をデバイスによる間接指定する サンプリンググループ番号の指定を、デバイスによる間接指定により行います。 この場合、参加局、機器名、デバイスアドレス / シンボルを指定します。  - 固定のサンプリンググループ番号 サンプリンググループ番号を固定して指定します。 この場合、グループ番号を指定します。 

設定項目	設定内容
セルがいっぱいになった時の動作	指定したセルがいっぱいになった場合の動作を設定します。 ・クリア後上書き ログデータ書き込みセルをクリアし、最初から書き込みを続けます。 セルがいっぱいの状態で Dを追加すると...  ・スクロール 全体的に上へスクロールして、最下段に新たなデータが書き込まれます。その際、最上段のデータは削除されます。 「データの種類」で「GP 画面データ」を選択したときに指定可能です。 セルがいっぱいの状態で Dを追加すると...  ・改シート 新しいシートに切り替えて書き込みを続けます。 そのシートに出力されているすべての機能が新しいシートに切り替わります。 セルがいっぱいの状態で Dを追加すると... さらにEを 追加すると...  ・ループ 上から順に上書きしていきます。 「データの種類」で「GP 画面データ」を選択したときに指定可能です。 セルがいっぱいの状態で Dを追加すると... 
シート作成時指定されたセル範囲をクリアしてからはじめる	テンプレートファイルからシートをコピーする時に、セル範囲にデータが書き込まれている場合は、これらを削除してから処理を開始します。

■「起動条件設定」タブ

設定項目	設定内容
アクション エリア番号	各アクションエリアに対する、テンプレートごとに割り付けられた番号が表示されます。
新しい起動条件	「起動条件設定」ダイアログが表示されます。 新しい起動条件を設定する場合にクリックします。
新しい起動ボタン	「起動ボタン作成」ダイアログが表示されます。 詳細については、「5.6.2 設定ガイド」をご覧ください。
GP ログデータアップロード	ログデータの読み出しを行う起動条件を選択します。 空白行の [起動条件] をクリックしたあと、リストボタンをクリックすると、登録済みの起動条件が表示されます。 MEMO - 起動条件を複数指定した場合、どれか一つでも成立するとアクションを実行します。 [編集] ボタンをクリックすると、指定した起動条件の編集ができます。 [削除] ボタンをクリックすると、指定した起動条件を削除します。

設定項目	設定内容
以下の条件成立時にセルをクリアする	設定した起動条件が成立すると、セルをクリアします。 空白行の [起動条件] をクリックしたあと、リストボタンをクリックすると、登録済みの起動条件が表示されます。 MEMO • 起動条件を複数指定した場合、どれか一つでも成立するとセルをクリアします。 • [編集] ボタンをクリックすると、指定した起動条件の編集ができます。 • [削除] ボタンをクリックすると、指定した起動条件を削除します。

9.3 制限事項

■ セルの結合について

結合されたセルについては、アクションエリアを設定しないでください。

例えば、以下のようなセルに対してアクションエリアを設定した場合、編集時や実行時の動作については保証いたしません。

	A	B	C	D
1	D1 00	D1 01	D1 02	D1 03
2				
3				
4				
5				
6				
7				

■ 貼り付けたアクションエリアが重なる場合について

大きさの異なるアクションエリアを重ねて貼り付けた場合、読み出し / 書き込み順序は、貼り付けた順で行われます。

■ Excel のウィンドウについて

設定画面が Excel の後ろに隠れてしまった場合、画面およびタスクトレイのウィンドウが点滅し、ユーザーに通知します。点滅は、設定画面が前面に出てくると自動的に停止します。

■ エラーが発生した場合におけるアクションエリアの動作について

「GP ログ」機能において実際に書き込み・読み込みを行った場合で、アクション エリアの範囲をはみ出した場合は、以下の共通の動作を行います。

1) テスト読み込み・テスト書き込み時

エラー画面が表示されます。

2) アクションをランタイムで動作させる場合

『Pro-Server EX』のログビューアにアクションのエラーとして記録されます。

■ テスト読み出しで実行されない機能について

テスト読み出し時には、以下の機能は実行されません。

・「セルがいっぱいになった時の動作」

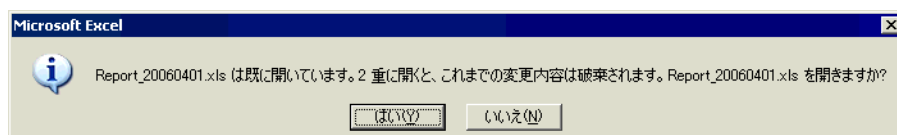
・「シート作成時指定されたセル範囲をクリアしてから始める」

■ 表示中の出力ブックを閉じてしまった場合

Excel 帳票アクションの出力ブックをついっかり閉じてしまった場合、以下の手順で出力ブックを起動させてください。

ドラッグ&ドロップなどで起動させると、読み取り専用になってしまい、起動ボタンなども動作しくくなります。

1. 出力ブックをダブルクリックしてください。
2. 以下のダイアログが表示されるので “いいえ ” を選択して出力ブックを起動します。



■ 受信通知について

Excel 帳票アクションでは、アクションが完了したことを示す受信通知を設定することができません。

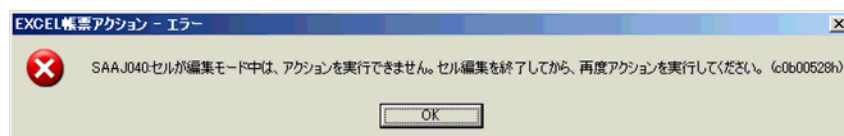
■ 起動元局の設定について

Excel 帳票アクションの設定画面において、参加局に「起動元局」と設定した場合、参加局タイプや接続機器が不明となります。

そのため、デバイスアドレスが赤字で表示されますが問題ありません。

■ 出力ファイルの編集について

Excel 帳票アクションが実行している間は、出力ファイルを編集することができません。このため、短い周期で起動条件が成立するような設定の場合、Excel 自体が非常に操作しくくなります。また、出力ファイルを編集中にアクションが実行されるとエラーメッセージが表示されます。



■ 出力ファイルの保存について

複数の Excel 帳票アクションで出力ファイルの保存先を同じ場所に設定しないでください。保存先を同じ場所に設定した場合は、Pro-Studio EX や Pro-Server EX が操作できなくなることがあります。

■ CF カード内のアラームデータまたはサンプリングデータを読み出す場合の制限について

- GP-Pro EX の日付フォーマット設定は「yy/mm/dd」を設定してください。CF カード内の CSV ファイルの日付データが「yy/mm/dd」の形式でない場合、間違った日付で読み出されることがあります。
なお Excel に出力する際、日付データは「20yy/mm/dd」(または「19yy/mm/dd」)の形式で出力されます。
- GP-Pro EX V3.12 未満をご利用の場合または Pro-Server EX V1.32 未満をご利用の場合、GP-Pro EX で [外部ストレージの保存先フォルダをファイル数で分割する] 機能を使用しないでください。
[ALARM] フォルダや [SAMP**] フォルダのサブフォルダ内に保存されているファイルは読み出しできません。
- GP-Pro EX のアラーム設定で [アラーム保存 (CSV) でメッセージを複数行出力] を有効にして保存された CSV ファイルを読み出した場合、改行が含まれているメッセージは行ごとに異なるセルに出力されます。
[アラーム保存 (CSV) でメッセージを複数行出力] を無効にして保存された CSV ファイルを読み出した場合は、はじめの改行までのメッセージが出力されます。

■ SRAM 内のアラームデータまたはサンプリングデータを読み出す場合の制限について

- GP-Pro EX の日付フォーマット設定にかかわらず、日付データは「yy/mm/dd」として扱われます。
Excel に出力する際、日付データは「20yy/mm/dd」(または「19yy/mm/dd」)の形式で出力されます。
- GP-Pro EX のアラーム設定で [アラーム保存 (CSV) でメッセージを複数行出力] を有効にした場合、改行が含まれているメッセージは行ごとに異なるセルに出力されます。
[アラーム保存 (CSV) でメッセージを複数行出力] を無効にした場合は、はじめの改行までのメッセージが出力されます。

■ 1500 行を超えるアクションエリア設定時の制限について

アクションエリアが 1500 行を超えると、アクション実行の時間が長くなる場合があります。デバイススワンショットまたはデバイスロギングで文字列置換を使用している場合は、さらに時間がかかります。

■ アクション エリアのコピーまたはカット アンド ペーストの制限について

アクションエリアを Ctrl+C & Ctrl+V や Ctrl+X & Ctrl+V でペーストした場合、複製後のアクションエリアに対して [対象セル範囲] を指定してください。

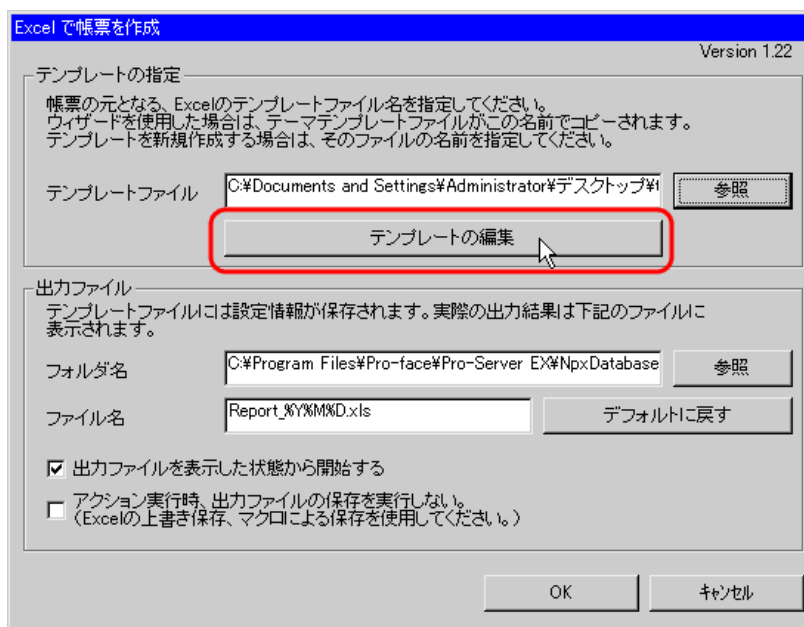
ペースト直後のアクションエリアは、元のアクションエリアと同じ [対象セル範囲] を保持しています。

	A	B	C	D
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

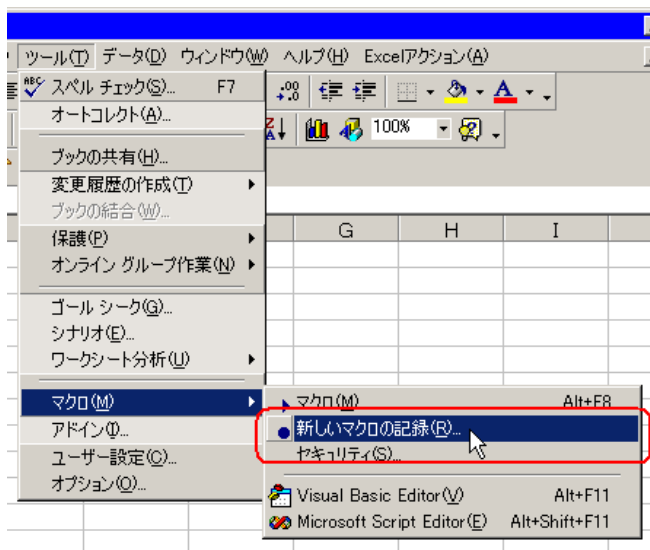
■ Excel の自動保存機能について

Excel の自動保存機能は、Excel の制限のため動作しません。自動保存が必要な場合は、以下の手順で Excel 保存マクロを作成し、作成した保存マクロをアクションで実行します。

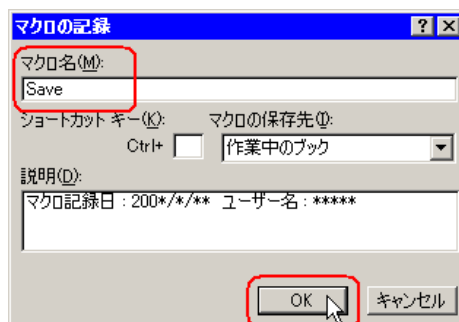
1 自動保存したいテンプレートを『Pro-Studio EX』で開きます。



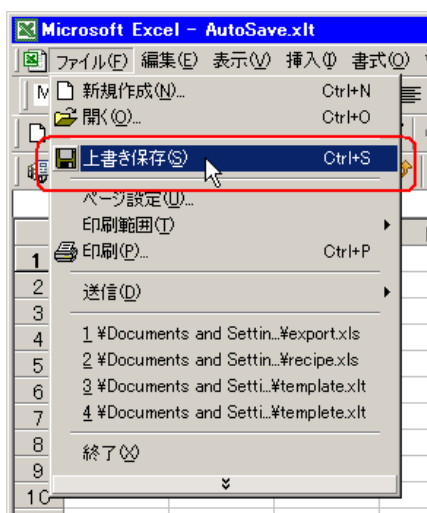
2 メニューの「ツール」から「マクロ」→「新しいマクロの記録」を選択します。



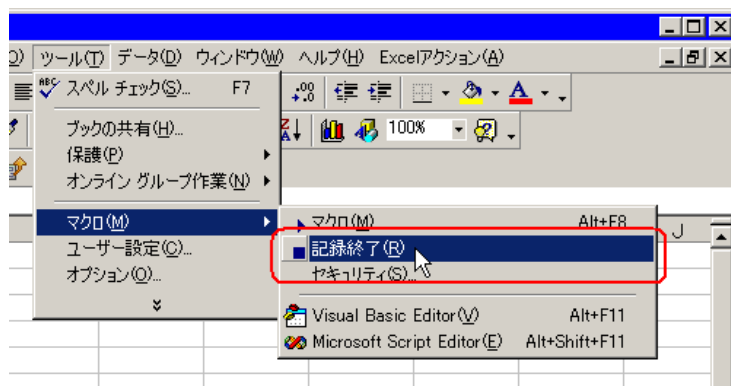
- 3 マクロ名「Save」を入力し [OK] ボタンをクリックします。
マクロの記録が始まります。



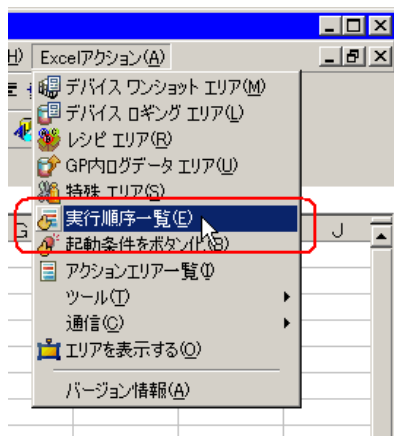
- 4 メニューの「ファイル」から「上書き保存」を選択します。
上書き保存がマクロに記録されます。



- 5 メニューの「ツール」から「マクロ」→「記録終了」を選択します。
マクロの記録が終了します。

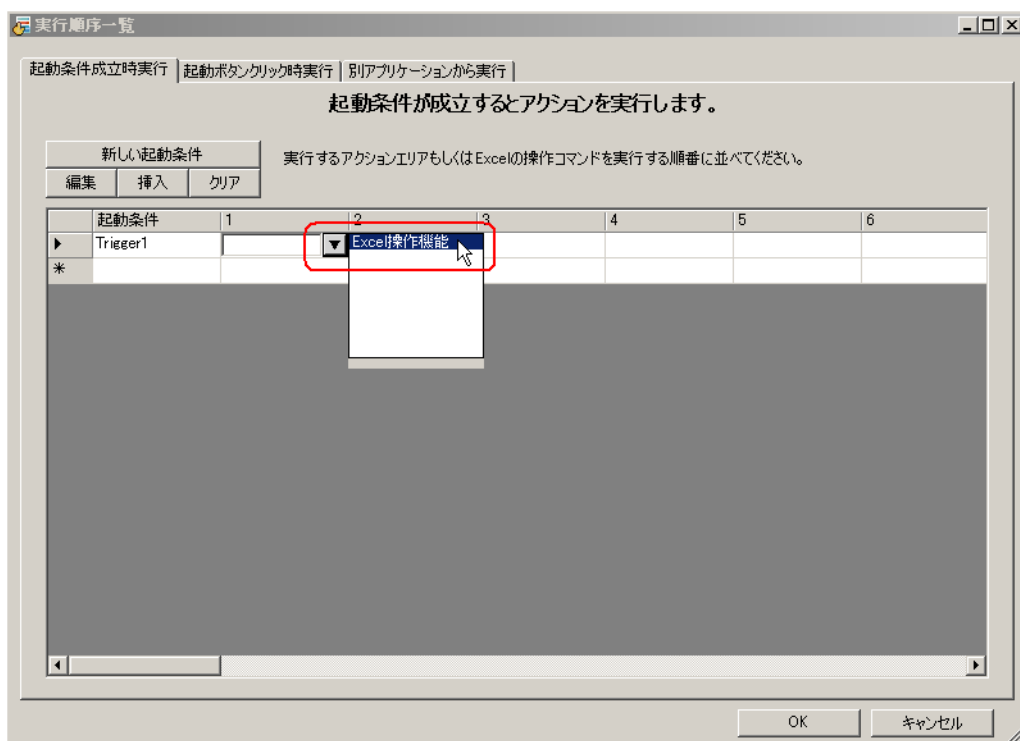


6 メニューの「Excel アクション」から「実行順序一覧」を選択します。

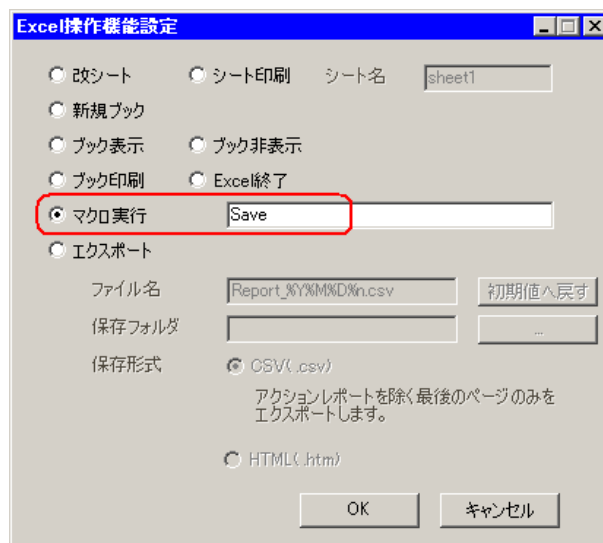


7 自動保存する起動条件を作成します。

8 作成した起動条件を選択し、「Excel 操作機能」を選択します。



9 「マクロ実行」を選択し、マクロ名「Save」を入力します。



10 [OK] ボタンをクリックします。

11 テンプレート編集を終了します。

12 設定内容を保存 / リロードします。

作成した起動条件にしたがって、自動保存が実行されます。